

2 Creation and Evolution of the Sesame Street Curriculum

Gerald S.Lesser (Harvard University)

Joel Schneider (Children's Television Workshop)

はじめに

セサミストリートは、30年以上たった今でも、当初のコンセプトをもとに制作され続けている。それは、ニーズの変化や制作・調査の積み重ねによって、常に修正され洗練され続けているからこそ為し得た事だ。子どもの成長や発達、学習に関する知識や理解も変わってきた、社会も変化する、スタッフも経験をつんだ、だからこそ継続的な調査、改訂が必要なのである。その成果であるカリキュラムの変遷を見ていこう！

カリキュラムはどのように生まれたか？

30年前のニーズ

都市部の貧困な家庭の就学前児童に対する教育の必要性。

ジョン・クーニイの提案「学齢前の子どもたちのためのテレビ番組」

学校に入る準備として必要なスキルとは？

教育学者、心理学者、小児科医、テレビや映画のプロデューサーなどの意見

早期教育の実証研究

都市部の親が子供のために何を望んでいるのか？

5つのスキル要素

社会的、道徳的、情緒的な発達 言語と読解 数学的、数的なスキル

推理と問題解決 知覚

セミナーの開催・・・「セサミ・ストリート物語」に、詳しいことが！

それぞれの分野のより細かな教育目標リストを作成するために、3日間におよぶセミナーを5回開催。幅広い視野をもつために、様々な分野の専門家を集めたことが成功。

カリキュラム

セミナーであげられた膨大すぎるほどの教育目標。優先順位をつける必要あり！

判断基準

どの教育目標が就学準備に適切なのか？

テレビを通した時に、どのような教育内容がより効果的に伝えられるか？

主な教育目標

象徴的な表象（文字、数、幾何図形）

認知の過程（知覚の分別、関係の概念、分類、順序、推理と問題解決）
物理的な環境（自然界、人間のつくった環境）
社会的な環境（社会構成、社会的な相互作用）

それぞれの目標における、具体的な行動目標をイラストとともにまとめた。

EX: 「20まで数えられる」「自分自身の名前を知っている」「身体の部分を識別し表現することができる」
番組の制作だけでなく、評価のデザインにも役立った

カリキュラムはどう変わっていったか？

カリキュラムの展開と改訂

- ・シーズンごとに新しい展開
(既存の話題により深くふみこむ、新しい教育目標を加える、感情やラテンアメリカ文化など技能以外の話題を加える、など)
- ・カリキュラムの改訂
 - ・専門家に相談
 - ・現在のセサミストリートに対する批評会（より具体的なアドバイスが得られるように）
 - ・CTW内部の批評会（視聴者の理解に対する形成的評価 制作の方向性）

カリキュラム変遷のよりどころ

- ・アメリカ人口の構造の変化とそれに伴う社会的関心（さまざまな文化の話題を取り入れる）
- ・子どもの成長、発達、学習に関する専門的見解の変化（読解力重視、科学的発見のプロセス重視）
- ・社会の変化（読み書きの技能よりも、社会的態度の養成が大切。親の希望も変化。）

焦点

- ・より高い効果をあげるため、シーズンごとに焦点をあてるテーマを決める。（制作と評価の両方）

特別な話題

- ・出演者のケガや死、出産などの出来事があった場合には、短期間で特別な編成。

今後のカリキュラム

- ・テレビだけでなく、育児施設やコンピュータの世界、本やビデオなど他のメディアにも
- ・コンピュータの話題をカリキュラムに
- ・より低年齢層の視聴者を視野にいれて

MEMO

- ・教育目標はしぼりこむのが難しい！（視聴者である子どもはどんどんかわる。）
- ・ターゲットをひろげるのは良いこと？